

夏期合宿報告：角間溪谷の植物

伊 藤 静 夫

昭和48年6月23日から24日にかけて植物研究会の合宿採集会が、小県郡の角間溪谷でおこなわれた。参加者は北村、山越、白井、和田、中山、堤、北村智、林、伊藤の会員と芳賀和夫氏（大阪教育大）と信大の学生であった。23日に岩屋旅館に宿泊し、翌朝8時に出発した。採集コースは角間溪谷を登り、烏帽子岳（2,065m）頂上までの往復のコースとした。天候に恵まれて参加者全員が自由な採集・観察をおこない、午後5時10分に無事出発点にもどり解散した。

コースに沿って記録した植物を記してみたい。岩屋旅館 カラマツ・ダンコウバイ・フサザクラ・カワヤナギ・岩壁のふちにカワヤナギの群落を見る。オニグルミ・エビヅル。岩屋観音 ミヤマホウソウ・クマシデ・ネジキ・ウリカエデ・サワシバ・クヌギ・キブシ・サワグルミ・ノリウツギ・タラノキ・イボタノキ・ニワトコ・トラノオシダ・クサギ・チョウジザクラ・ヤシャブシ・ニシキウツギ・フジ・フクロシダ・パッコヤナギ・ヒカゲスゲ・オニシモツケ・リョウブ・ツガ・ウリノキ・ヤマブキ・ヤマイヌワラビ・ハンゴンソウ・ミヤマガマズミ。960m パッコヤナギの群落が帯状に発達する。コナラ群落を見る。ウド・ズミ・クリ・ハウチワカエデ・エゾノタチツボスミレ・ボタンヅル・ツリバナ・ケヤキ・ケヤキ群落が点在する。ウリノキ・ニガキ・ウワミズザクラ・マユミ・シキンカラマツ・ミズキ・スズタケ・溪谷の対岸は自然林に近いアカマツ群落である。クサソテツ・アキノキリンソウ・イワデンダ・サワダツ・ノ

イバラ・ヒメウツギ・ナガハグサ・イチゴツナギ・イカリソウ・ヤマブドウ・カニツリグサ・オダマキ・キバナハタザオ・オオヤマフスマ・ヌルデ・ツリフネソウ・クサフジ・イタチササゲ・サンショウ・アイズシモツケ・カラハナソウ・ツノハシバミ・スギ・植林地はわずかである。ノダイオウ・ムラサキシキブ・ゴマナ・クモノスシダ・アカネ・サルナシ・ナンテンハギ・オドリコソウ・カエデドコロ・キツネノボタン・ナツグミ・アケビ・ヤマウコギ・オカトラノオ・ナワシログミ・ツルウメモドキ・カラアキグミ・ヤマナシ・カワラスゲ・ヤマツツジ・ミズナラ。

1,150m 溪谷に沿ってクマシデ群落が点状にする。アカソ・マタタビ・ヤグルマソウ・シナノキ・エンコウカエデ・コンロンソウ・ヒメウツギ・キョタキシダ・クマシデ・チドリノキ・コゴメウツギ・ヤブデマリ・ツクバネウツギ・ヒメヤシキブシ・ウシコロシ・オオバクロモジ・トウゴクミツバツツジ・クリンソウ・ハナイカダ・ミヤマガマズミ・エンレイソウ・トクサ・溪谷を渡る。ミヤマウグイスカグラ・クマヤナギ・クリンユキフデ・ミヤマカラマツ・アサノハカエデ・チョウセンゴミシ・ミヤママタタビ・タガネソウ・ツタウルシ・オシダ・トリアシシヨウマ・シウリザクラ・サカゲイノデ・ヤブレガサ・ヤブデマリ、溪谷沿いにサワグルミ・ジュウモンジシダ群落がある。ワダソウ・ズタヤクシュ・ノブキ・ササバギンラン・リュウノウギク・グンナイフウロウ・アカシヨウマ・ウリハダカエデ・ゴヨウイチゴ・ハンゴンソウ・ヤマカモジグサ・オダマキ・サワグルミ・クサボタン・シロバナヘビイチゴ・シラカンバ・スズ

ラン・ミツバツチグリ・イブキヌカボ・オヤマボクチ 分岐点に出る。溪谷と別れて烏帽子登山路に向かう。付近一帯がカラマツ植林である。ヤマナラシ・カモガヤ・クロベ・ツガ・ヒメコマツ。1250m アキグミ・ワラビ・アイズシモツケ・アサノハカエデ・ハシリドコロ・オヒョウニレ・急な登りになる。ツガ群落を見る。ヤマハタザオ・メギ・クガイソウ・サワギク・オオカメノキ・コウライテンナンショウ・クルマバクバネソウ・タチシオデ・トリアシショウマ・ヤマボウシ・ベニバナイチヤクソウ・ネコノメソウ・ヤマドリゼンマイ・ツルキケマン・ヒロハコンロンソウ・ウワバミソウ・ルイヨウショウマ・ルイヨウボタン・ヒロハカツラ。1400m 昼食をとる。ヒロハツリバナ・コマツガ林が広がる。1540m マイズルソウ・ヘビノネコザ・コシアブラ・アズマシャクナゲ・ダケカンバ・セリバオウレン・ケナシハクサンシャクナゲ・イワカガミ・オクモミジハグマ。1690m 天狗のかけ橋。ダケカンバ・スノキ・サラサドウダン・センジュガンビ・マルバダケブキ・ミヤマカタバミ、コマツガ林が1780mまで発達する。ツガザクラ・クロマメノキ・ミネズオウ・コケモモ・ガンコウラン・午後2時30分烏帽子岳頂上に着く。

下山の途中、コマツガ林の植生調査を行なった。表1が調査結果である。内陸的なコマツガ林として考えたい。従来、県下のコマツガ林は植物社会学的には、シラビソ-オオシラビソ群落の下位単位のコマツガ亜群落として位置づけられている。しかし、内陸のコマツガ林は必ずしもコマツガ亜群落と断定できないと思う。今後の研究に待ちたい。表2は主に溪谷に沿って発達した樹木群落の垂直分布を示す。クマンデ群落、ツガ群落については、更に調査研究すれば興味ある結果が得られよう。

表1 コメツガーアズマシャクナゲ群落

高木層	高さ 15m	植被率 80%
亜高木層	高さ 6m	" 5%
低木層	高さ 2m	" 60%
草本層	草高 0.5m	" 70%
海拔 1,780m		
調査面積 10×10m		
出現種数 18		
高木層		
	コマツガ	4.4
	ダケカンバ	2.2
	ナナカマド	+2
亜高木層		
	コマツガ	1.1
低木層		
	コマツガ	2.3
	オオカメノキ	2.2
	ナナカマド	1.1
	アズマシャクナゲ	1.2
	ミネカエデ	+
	ミネザクラ	+
草本層		
	カニコウモリ	3.3
	マイズルソウ	2.2
	シノブカグマ	3.3
	コマツガ	3.3
	オオカメノキ	2.2
	ナナカマド	2.2
	ミヤマカタバミ	+
	ゴゼンタチバナ	+
	ツルツゲ	+
	イワカガミ	+
	ツバメオモト	+
	ミヤマシグレ	+
	コミヤマカタバミ	+
	ホソバトウゲシバ	+
Moss, セイタカスギゴケ, イワダレゴケ, カモジゴケ, タチハイゴケ, フジノマンネングサ		

表2 角間溪谷の樹木群落の垂直分布

群落名	海拔
カワヤナギ	—
パッコヤナギ	—
コナラ	—
ケヤキ	—
アカマツ	—
クマンデ	—
サワグルミ	—
ミズナラ	—
シラカンバ	—
ツガ	—
カラマツ (植林)	—
ヒロハカツラ	—
コマツガ	—
ダケカンバ	—